

少子化時代を迎えた 長野県の教育行政の取り組みは

Q 不登校問題は

昨年、本県が不登校の全国ワースト1と、不名誉とも言える調査結果が発表され、県民の動揺は計り知れないものがあった。教室に行きたくても行けない子どもたちに、いかに学力、体力、道徳、社会性を身に付けるようにしてあげられるかが課題である。学校に行けない子どもだけの問題でなく、当事者児童をとりまく生徒児童の集団を広い視野で見守り、支援できる体制が欠かせないのではないかと。どんな人々と、どのように対応しようと考えられているのか、教育長に質問した。

A 相談支援体制の充実を

教育長は、不登校は学力や進路など、その子の将来に関わる問題であり、一人ひとり違った背景を持つ子どもたちに対応していくために、学校・家庭・地域・民間団体等、様々な人たちが多面的に関わっていくことが重要だ。県教育委員会としては市町村教育委員会と連携して、子どもたちの悩みや不安に寄り添った相談支援体制の充実など、幼少期から継続的に子どもを見守る体制づくりを支援していくと答弁した。



Q 心の教育・道徳教育は

これからの社会で最も必要とされている「心の教育」「道徳教育」について、教師こそが心の余裕を持つことができない教育環境づくりなども含め、どのように考え取り組まれていくのか。

A 人格のふれあいが必要

子どもにもモラルや倫理観を培うための根幹は、教師と子どもとの人格のふれあいが重要だ。そのために、子どもと共に考え、悩み、感動を共有していくために、教師が子どもと向き合う時間を確保する環境づくりを進める。

Q 学力向上も望まれている

教育委員長には、学力の低い子どもたちへのサポートも必要と同時に、学力の高い子どもたちが、生き生きと勉強できる環境も必要と考えを述べ、学力向上についてどんな教育を目指すのかを質問した。

A 平等性と卓越性のバランスを

豊かな人間性・自ら学ぶ自ら考える力など「生きる力」を育む教育の推進を目標とし、「分かる授業」「特色ある教育」「楽しい学校づくり」を柱とする。学力向上については、平等性と卓越性のバランスをとりながら、一人ひとりを伸ばしていく教育の実現を図ると、県教委の取り組み姿勢を示した。

健康長寿県No.1を維持のため!! 歯科医師・歯科衛生士の通年雇用の考えは



学校で歯磨きの指導を受ける児童

健康長寿県No.1を堅持のためには、本県の歯科保健衛生の充実も必要不可欠な施策の一つと考える。県議会では、長野県歯科保健条例（仮称）制定に向け、検討をしているところである。「歯及び口腔」の健康管理が健康長寿にとって影響が大きいことが実証されている昨今、より専門的知識をもって施策の企画推進を図っていくためにも、歯科医師及び歯科衛生士の通年雇用するべきと、衛生部長に考えを求めた。

条例制定の動向を

歯周疾患と全身の健康との関係が指摘されており、高齢者の口腔衛生など歯科保健の重要性は益々増加すると考える。来年度も歯科保健行政アドバイザーの配置に必要予算措置もお願いしている。歯科医師、歯科衛生士の通年雇用については、条例制定の動向や業務を勘案しつつ検討していくとの答弁を得た。

医療の地域間格差を生じさせないため!! 広域行政圏においても連携システムの確立を



佐久病院で医療懇談

本県は地理的・地形的要件が特殊なため、単なる医療機関の主体的な連携だけでは無理がある。医療の地域間格差を生じさせないためにも、二次医療圏内に行政と医療機関が、将来を見据えた「医療の機能分担と連携」に向けて、協議する場の設定や広域行政圏においても三次・二次・一次と、それぞれの機関が、十分機能を果たせるような、連携システムの確立が必要と衛生部長に質問した。

ネットワーク化を推進

がん・脳卒中などの4疾病、災害・救急医療などの5事業ごとに、機能分担と連携体制の構築を進めている。二次医療圏には各種拠点病院、それに連なる病院・診療所などの医療機関があるが、現在の厳しい状況のもとでは、医療機関相互の機能分担と連携の推進が何より肝要であり、そのことを通じ「病院完結型医療」から「地域完結型医療」への転換が必要と考える。

財政課題等も質問
高見澤県議は今回の代表質問に対し、一つに少子高齢化の中における県の取り組み、二つに中期総合計画の目標達成に向けての取り組み、そして、国の政権交代による県の影響と対処等を、中心に質問すると冒頭に触れ、財政と予算編成問題、警察再編後の課題と対処、産学官連携を活用し

第2期村井県政の考えは
最後にこの夏に任期となる村井知事に、今回の通年・積極的予算を第2期村井県政として、最後まで責任を持って執行されるのかと、今後の県政運営に望む考えを質した。知事は、県民から付託したいっている任期の間、予算の執行を含め一所懸命努力すると、具体的な考えは示さなかった。傍聴者から高見澤県議の質問は、ハキハキして内容も良かったとの声があった。

長野県の観光事業の位置づけは



善光寺御開帳時の観光客

長野県の観光は、産業としても県内でも重要な地位を占め、その観光消費額は本県の基幹産業の一つである農業の農業農村総生産額を上回っている状況である。観光産業は、旅館・ホテルなどの宿泊業をはじめ、レストランなどの飲食業、バス・電車などの交通事業、さらには、地域の物産や土産屋さんなど、大変「すそ」の広い産業であり、地域に密着した産業として、極めて重要である。そこで、長野県における観光産業の「位置づけ」を観光部長に質問した。

地域の活性化の切り札

長野県の観光は、産業としても県内でも重要な地位を占め、その観光消費額は本県の基幹産業の一つである農業の農業農村総生産額を上回っている状況である。観光産業は、旅館・ホテルなどの宿泊業をはじめ、レストランなどの飲食業、バス・電車などの交通事業、さらには、地域の物産や土産屋さんなど、大変「すそ」の広い産業であり、地域に密着した産業として、極めて重要である。そこで、長野県における観光産業の「位置づけ」を観光部長に質問した。

達成可能な数値



雪の飯山を視察

委員を務める高見澤県議

県会議長と懇談した南牧村議会議員